

和歌山県立医科大学附属病院 小児科

当科の特徴

当研修施設は、大学病院であるとともに和歌山県のこども病院機能も備えており、心臓外科、腹部外科、脳神経外科等の小児外科疾患の手術症例も豊富です。また、和歌山市夜間休日応急診療センターと連携し、1次から3次の小児救急患者も随時受け入れており、小児のプライマリーケアから高度先端医療までのすべてを満した研修をおこなうことが可能です。初期研修修了後の後期研修では連携施設で2年間の院外研修を行い、1年間の院内研修を行います。院内研修では小児科病棟の各臨床グループ（血液、腎臓、心臓、神経）の研修と、NICUの研修を6ヶ月ずつ行い、計3年間の後期

研修修了時に日本小児科学会専門医の受験資格を得ます。また、大学院入学は原則専門医取得後になりますが、個々に相談に応じます。その場合は博士論文を作成し博士課程を修了することを目標とします。

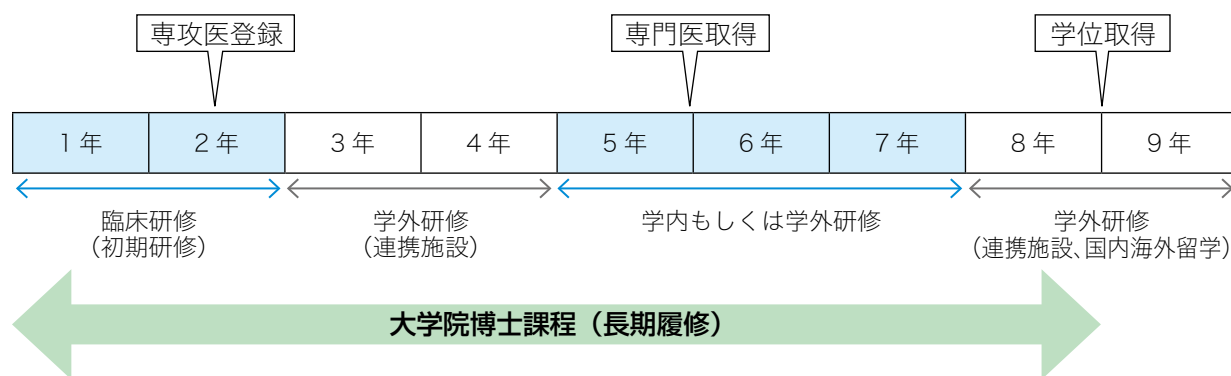
後期研修修了後は、希望する各研究グループに属して、臨床、研究面ともに専門性を高めていくのが一般的ですが、本人の希望に応じて国内外の研修施設への留学も積極的にすすめています。また、希望者には一般小児科勤務医としての就職の支援もおこなっています。



ローテーション例

一般枠コース

※ □ は学内研修

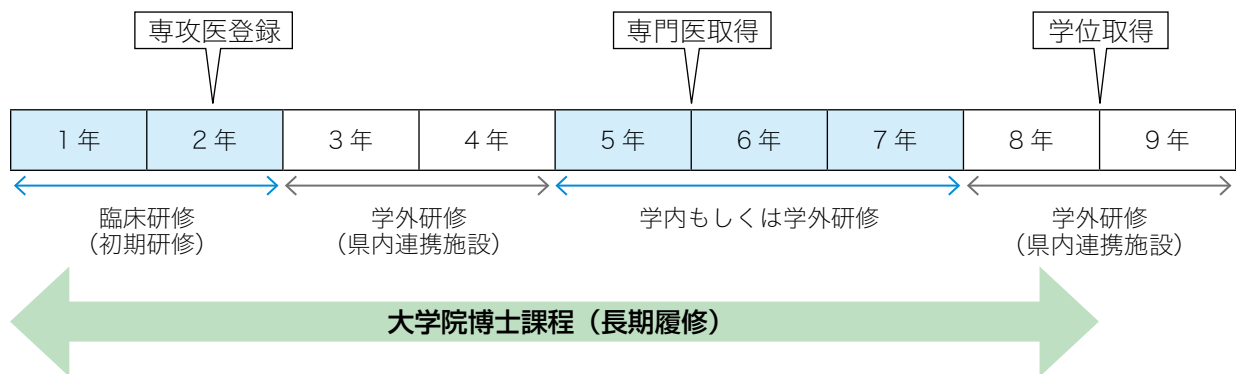


一般枠コースでは3年目、4年目は連携病院での院外研修を行い、一般小児疾患の診療技術を取得し、5年目は大学で各臨床グループの専門性の高い疾患の診療、NICU研修を行います。その後専門医を取得し、希望する各研究グループに属して、臨床、研究の専門性を高めていきます。8年目、9年目には希望する国内外の研修施設への留学も可能です。また、後期研修期間修了後に、希望者は大学院に入学し、9年目に博士論文を作成し学位を取得することを目標とします。

ローテーション例

県民医療枠コース

※ □ は学内研修

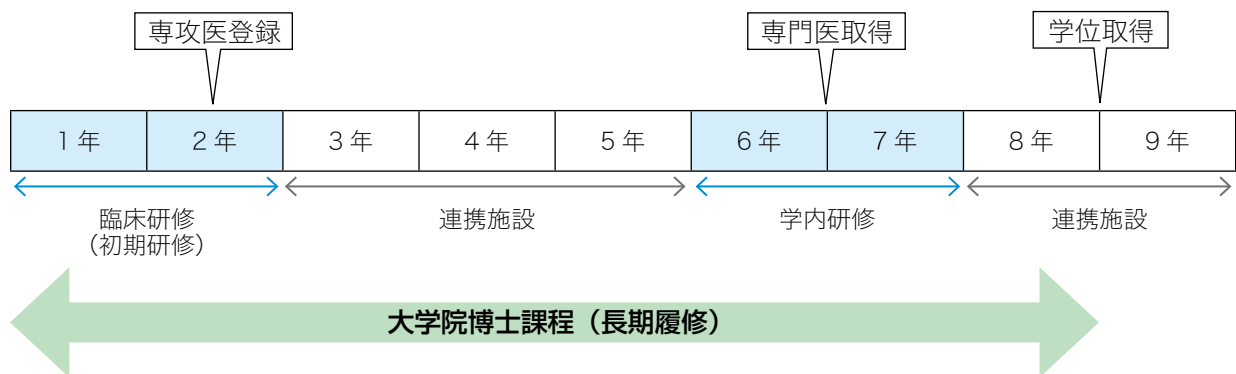


県民医療枠コースでは3年目、4年目は県内の連携中核病院での院外研修を行い、一般小児疾患の診療技術を取得し、5年目は大学で各臨床グループの専門性の高い疾患の診療、NICU研修を行います。その後専門医を取得し、希望する各研究グループに属して、臨床、研究の専門性を高めていきます。8年目、9年目には地域中核病院で後輩の指導を行いながら、週1回は大学で研究を継続し、地域中核病院で活躍できる医師を目指します。また、後期研修期間修了後に、希望者は大学院に入学し、9年目に博士論文を作成し学位を取得することを目標とします。

ローテーション例

地域医療枠コース

※ □ は学内研修



地域医療枠コースでは臨床研修（初期研修）の後、3年から5年目まではへき地医療拠点病院等で研修を行い、6、7年目には学内研修で高度な医療の研修を行います。8、9年目にはへき地医療拠点病院等で後輩の指導にあたりながら小児科のみならず、総合医や家庭医としてのスキルを磨いていきます。専門医取得は連携施設が、小児科学会の研修施設の基準を満たしているかで、取得する時期は異なりますが、できるだけ早期に取得できるように、研修体制を支援します。また、研修期間中に希望者は大学院に入学し、博士論文を作成し学位を取得することを目標とします。

研修目標

成長過程にある小児をその家族も含めてサポートすることを目指し、そのために臨床医に必要な知識、態度および診療技術の習得を目指す。

小児科医療の対象となるのは、一般的疾患だけではなく、先天異常、身体障害、心因反応、療育問題、予防接種、救急医療等多彩で、さらに地域医療との連携や他科との協力を円滑におこなえる能力を取得することを目標としている。

経験目標

小児科専門医の取得に必要な下記疾患の診療技術の習得
 1、遺伝疾患、染色体異常、先天奇形、2、栄養障害、代謝異常、消化器、3、先天代謝異常、内分泌疾患、4、免疫異常、膠原病、リウマチ性疾患、感染症、5、新生児疾患、6、呼吸器疾患、アレルギー、7、循環器疾患、8、血液疾患、腫瘍、9、腎泌尿器疾患、生殖器疾患、10、神経筋疾患、精神疾患、心身症

教授からのメッセージ



鈴木 啓之 教授

基本的に、小児科医とは小児の総合診療医とならなければいけません。栄養・発育を含めて小児のすべての分野に基本的な知識と判断力が求められます。

その臨床的な実力を培うために初期研修・後期研修を通じて、幅広い分野の症例経験をして頂き、その病歴から始まり診察・検査・鑑別診断の能力を培うと同時に、小児科独特の手技の実力アップについてもスタッフ一同全力で指導し、サポートしたいと考えています。

近年、小児の疾病構造に大きな変化が表れてきています。多くの種類のワクチンが開発され、接種率も向上する中においては、髄膜炎などの重症感染症が顕著に減少してきていま

す。このように自然科学系の疾病が減少する一方で、小児虐待、不登校、摂食障害などの社会医学的な疾患が増加する傾向にあります。

小児における疾病構造の変化を踏まえつつ、和歌山県立医科大学附属病院小児科では遺伝・新生児グループ、神経グループ、腎臓グループ、血液グループ、心臓グループの各グループにおいて専門的・先進的小児医療を推進しています。

関連病院では小児の数は減ってきているとはいえ感染症など小児の common な疾患を学んで頂き、一方、大学では専門的・先進的医療に触れつつ、小児医療の幅広さ、奥行きを学んで頂くために小児科医局員一同全力でサポートする所存です。

小児科での研修をお考えの皆様、和歌山県立医科大学附属病院小児科および関連病院で小児科研修を行ってみませんか。お待ちしております。



小児腎生検



心臓カテーテル検査



長時間脳波検査

当科で取得可能な専門医と指導体制

研修施設	小児科専門医数
紀南病院	5
ひだか病院	2
和歌山ろうさい病院	3
橋本市民病院	2
公立那賀病院	3
海南医療センター	3
愛徳医療福祉センター	3
和歌山病院	1
日本赤十字社和歌山医療センター	9
泉大津市立病院	3
阪南市民病院	2
新宮市立医療センター	2

小児科専門医受験資格

- 1、医師免許
- 2、2年間の初期臨床研修
- 3、学会の指定した研修施設で3年以上の研修
- 4、大学病院で6ヶ月以上の研修
- 5、症例要約（10疾患分野で30症例）
- 6、学会が指定する医学誌へ筆頭著者として掲載